

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591600048		
法人名	医療法人 健仁会		
事業所名	グループホーム野の花(1階)		
所在地	山口県山陽小野田市大字郡字浜3233番7		
自己評価作成日	平成25年2月25日	評価結果市町受理日	平成25年7月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成25年3月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

野の花は朝の川霧、干潟の鳥、夕日が絶景のグループホームです。「皆に優しく、共に楽しく」の理念のもと、言葉づかいや態度について接遇研修を定期的実施して学び、優しく、尊厳に配慮した支援に努めています。法人で応急手当推進委員会を立ち上げ全職員が勉強会に参加し、緊急時に対応できる実践力を身につけるよう定期的に確認、訓練を行っています。開設し5年が経過し利用者様の介護度も次第に上がってきている中でも「笑顔」「元気」を目標にお一人お一人の力を活かせるように支援しています。また理学療法士、栄養士、看護師、ケアマネとも連携し、ご本人の「歩きたい」「人の役に立ちたい」との想いを実現させた事例を法人の研究発表で発表しました。地域交流では、施設長が自治会青年部体育部長を努めています。お祭りでは法人ソーラン部による演舞を披露しました。お寺のご住職による法話の会は皆さん毎月心待ちにされています。地域の小・中学生が来苑し、利用者様と触れ合ったり、地域の方々から無償でお借りしている休耕作地で小学生と一緒に野菜の苗植から収穫までを行い、年々地域との交流が深まっています。年3回の家族会では、たくさんのご家族の参加を頂き、今年のクリスマス会では水戸黄門に扮したご家族が歌を唄われました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は地域との付き合いを日常的にしておられ、利用者は地域の運動会や夏祭り、ふれあい文化祭、八幡宮の秋祭り、お寺の餅まき、保育園の夕涼み会、小学校の運動会、卒業式などたくさんの行事に参加され、地域の人たちとの交流を楽しまれています。事業所の避難訓練に地域の人や運営推進会議のメンバーなどが参加され、一緒に訓練を実施されている他、地域の防災訓練への参加や自治会の自主防災組織に加入されるなど、災害時における地域との協力体制を築いておられます。事業所だよりには、事業所の理念や4つの柱を掲載されたり、毎月の行事、研修、利用者の日常風景や行事の写真、家族会に参加された家族の声、看護師や管理栄養士などのコメントなど充実した内容で、家族に伝えておられ、便りを読まれる家族には、利用者日々の生活状況等が良く分かり、喜ばれています。年2回のアンケートや、家族会、運営推進会議などで、家族の意見や要望を聞く機会を設けられておられ、出された要望を運営に反映されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591600048		
法人名	医療法人 健仁会		
事業所名	グループホーム野の花(2階)		
所在地	山口県山陽小野田市大字郡字浜3233番7		
自己評価作成日	平成25年2月25日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成25年3月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ケアの4つの柱「横に座る その人を知る 嘘をつかない ゆっくりと穏やかに」を基に尊厳を大切に支援に取り組んでいます。法人内研修や外部研修も多く、法人で応急手当委員会を立ち上げ、全員が参加し、緊急時に一人一人が確実に対応できるように、定期的に手技の確認をおこない、実践力の強化をしています。開設5年の今では地域の行事や催しに声をかけていただけるようになりました。また、運営推進会議に参加の自治会長、民生委員、市役所の方々も消防訓練に参加され、今後の災害時の対応についても話し合っています。利用者様の健康管理には特に気をつけており、毎月かかりつけ医の健康診断を受け、薬剤管理指導、歯科検診、訪問看護を定期的に行っています。法人の医師、看護師との24時間体制の連携を図り、今年度は1名の看取りをしました。看取りとなられた方の「家に帰りたい」という想いを汲み取り、ご家族の協力とともに一時帰宅を支援しました。帰宅され、遠方より集まられたご親族に囲まれ翌日、ホームで看取りました。四十九日には手作りのアルバムを持って訪問させていただき故人を偲びました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時また、ミーティングの初めには理念の唱和を行い、名札の裏や書類にはケアの4つの柱を印字し常に心にとめ理念の共有・実践に取り組んでいる。ミーティングでも議題にあげみんなで話し合いの場を設けている	地域密着型サービスとしての理念をつくり、事業所内に掲示して朝礼時やミーティング時に理念を唱和して共有している。各ユニットの月1回のミーティング時に理念について確認をする他、年1回振り返り、理念を実践につなげている。	
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時またミーティングの初めには理念の唱和を行い、名札の裏や書類にはケアの4つの柱を印字し常に心にとめ理念の共有・実践に取り組んでいる		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入っており、地域行事には必ず声をかけて頂いている。管理者が自治会内に住んでおり普段からも地域の方々との交流ができています。地域行事の際には職員も準備や片づけの手伝いをしています。近所の商店に買い物に行ったり、事業所で作ったお餅などを差し入れとしてご近所にお配りしている。	自治会に加入し、地域の運動会や夏祭り、ふれあい文化祭、八幡宮の秋祭り、寺の餅まき、どんど焼き、保育園の夕涼み会、小学校の運動会、卒業式などに参加している。小、中学生の来訪がある他、小学生と一緒に野菜の苗植えや収穫をしたり、散歩や買い物、御大師巡りなどで出会った地域の人と交流している。近所の人から花の差し入れがある他、事業所で作った餅を近所に配るなど日常的に交流している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入っており地域行事には必ず声をかけて頂いている。管理者が自治会内に住んでおり普段からも地域の方々との交流ができています。昨年は小学校の卒業式に出席した。近所の商店に買い物に行ったり、事業所で作ったお餅などを差し入れとしてご近所にお配りしている。月に1回地域のお寺からご住職が法話に来て下さっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3	1階	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて民生委員や自治会の方々から認知症についての質問もあり、認知症介護の実践経験や知識をお話する場がある。地域の小・中学生の来苑があり、実際利用者様と触れ合って頂く事で認知症の理解を深めている。また毎月の野の花メールを自治会の回覧に回して頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して自治会の方や民生委員の方に認知症高齢者の理解や、関わりについて質問、相談を受けている。毎月の野の花メールを各自自治会の回覧に入れて頂いている。		
4	(3) 1階	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価のコピーを全員に配布し全員で自己評価に取り組み、見直しを行っている。外部評価の結果は野の花メールでご家族にお知らせし、運営推進会議でもお知らせしている。前回の結果は会議で取り上げ改善案について話し合いの場を持っている。外部評価の意義についての勉強会も実施している	評価の意義を理解した上で全職員で自己評価している。評価の過程で利用者への声かけや対応について、振り返りや見直しをしている。緊急時の対応について実技を含んだ研修を実施するなど評価を活かした取り組みをしている。	
4	(3) 2階	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	ミーティングで評価の意義を全員に伝え、全員で自己評価に取り組んでいる。評価の結果について会議で取りあげ改善点について具体的な案を出し全員で取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、利用者様の状況や行事、研修、災害訓練、外部評価結果等を報告し、会議の参加者(ご家族、自治会長、民生委員、漁業組合代表、市担当者等)と意見交換をしている。消防訓練にも参加して頂き反省点等の意見を頂きサービスの向上に活かしている	2か月に1回開催し、行事や活動、研修、避難訓練などの事業所の取り組みや、利用者の状況、外部評価結果などについて報告し、参加者で意見交換している。運営推進会議のテーマや防災についてのアンケートを実施し、災害訓練に参加した会議のメンバーから出た意見などをサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、利用者様の状況や行事や研修、災害訓練、外部評価結果等を報告し会議の参加者(家族、自治会長、民生委員、漁業組合代表、市担当者等)と意見交換をしている。		
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議に法人代表・ケアマネ他多数参加している。市役所職員との情報交換も日頃からしており必要に応じて指示・指導を頂いている。また認定調査で地域包括支援センターの職員が訪問した際にも情報交換を行っている。運営推進会議でも情報交換を行っている	運営推進会議の他、市の担当課には電話やFAX、直接出向いて情報交換をする他、相談して助言を得るなど協力関係を築いている。地域ケア会議への参加や地域包括支援センターとも連携を図り、情報交換をしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議に法人代表、ケアマネ他多数参加している。認定調査を通し地域包括支援センターの職員が訪問される際、情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約の際には重要事項説明書及び契約書で身体拘束の理念や方針をご家族に説明している。マニュアルがあり法人勉強会やグループホーム勉強会にて身体拘束の恐ろしさを学んでいる。中庭や他事業所への入り口の鍵はいつも開いており自由に行き来して頂いている。身体拘束をせずにどのようにすれば安全に過ごして頂けるかを会議で話し合い環境やケアの工夫を行っている	法人の研修や内部研修で学び、全職員が正しく理解し、玄関の施錠を含めて抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては職員同士で注意しあう他、リーダーが指導している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成しており、勉強会などで職員全員が理解しどんな場合でも拘束はしないことに努めている。丁寧な言葉でも語尾が強くなると抑制的な言葉に聞こえてしまうので、接遇委員会でも基本の挨拶とともに語尾に気を付けることに取り組み指導を受けている。		
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム勉強会にて法律を含めた勉強会を行っている。ケアにおいては身体的および精神的に虐待がないようお互いに注意し合っている。また、接遇研修も定期的に行われており言葉遣いや接する態度についても指導を受けている。		
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人勉強会で学び、グループホーム勉強会でも勉強している。ケアにおいて身体的、精神的虐待がないか、お互いに注意し合い防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人勉強会やグループホーム勉強会で学ぶ機会を設けている。現在成年後見制度を利用されている方はいらっしゃらないが、ご家族には必要に応じてこのような制度がある事をお伝えできるように資料がある。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人勉強会やグループホーム勉強会で学ぶ機会を設けている。必要時にご家族にもこのような制度があることをお伝えしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	1階	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては担当者が中心となり重要事項説明書及び契約書にて丁寧に説明しその都度質問を受けながら疑問点や不安等の相談を受け、理解納得を図り同意を頂いている。重要事項説明書の改定等は文書及び口頭にてしっかり説明し理解して頂いている。		
10	2階	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書と重要事項説明書を担当者が詳しく説明し、その都度質問を受けながら理解、納得して頂き同意を得ている。入院等による解約の時にも利用者様、ご家族の要望に沿えるように援助している。改定時にはその都度ご家族に説明し同意を得ている。		
11	(7) 1階	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に重要事項説明書での相談・要望の受付体制や処理手続きなどを詳しく説明し納得頂いている。また意見や希望は面会時等に和やかな雰囲気意見交換ができています。要望等がある時は会議等で話し合い、改善策を出し要望に答えられるようにしています。家族会では意見交換会の場を設けご家族一人一人の想いを聞く機会を設けている	電話や面会時、運営推進会議時、家族会などで家族から意見や要望を聞く他、年2回アンケートを実施し、事業所に改善して欲しいことや気になる点などを聞き、結果をまとめ、事業所便りで家族に知らせている。居室入口のカーテンの取り付けをして欲しいという要望に対して、防災カーテンを取り付けるなど、意見を活かしている。相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、家族に周知する他、意見箱を設置している。	
11	(7) 2階	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に重要事項説明書で、相談、要望の受付体制や公的相談窓口、第三者相談窓口もお伝えしている。日々の会話の中で利用者様の想いや、不満を汲み取るようにしている。また年二回ご家族へのアンケートを実施し、結果は野の花メールでお知らせしている。ユニットに要望・相談への体制について掲示し見て頂けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットミーティングや合同ミーティング時にスタッフひとりひとりの意見を聴く機会を設けている。リーダーは職員からの意見や提案があった場合、管理者や代表に報告し、運営会議や法人グループホーム合同会議等で議題にあげ反映させている。スタッフの意見から夜勤帯に寒さをしのぐ為の暖房器具を購入してもらった	月1回の合同ミーティングの時や各ユニット会議で職員から意見や提案を聞く機会を設けている他、日常の業務の中でも聞いている。利用者の状態に合わせての食事の改善や中庭の活用(弁当を作ってピクニック)、業務の流れの改善など、職員の意見や提案を反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議と必要に応じて緊急にミーティングを行っている。職員の意見や提案を聴く機会を設け、グループリーダー会議では代表をはじめ、他管理者から指示を頂きすぐに反映させるようにしている。		
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	グループホームの人材として、人間として、家庭人として優れた人が望ましいと考え一人ひとりの能力を見極めて業務にあたっている。能力や資格に応じた手当もある。各役割分担をし、担当となることで自信や向上心に繋げている。ノー残業週間もある。疲労を残さずストレス軽減に取り組んでいる。		
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務・公休希望についてはなるべく取り入れてシフトを組むように配慮している。能力や資格に応じた手当もある。各役割分担や月リーダー、担当になることで自信や向上心につなげている。定時で帰宅出来るよう声かけしている。花見や忘年会はストレス発散の場になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人や新任研修のマニュアルを作り指導している。月2回の法人勉強会に参加している。ポイント制があり出席者・講師にはポイントが付くようになっている。法人は介護福祉士・介護支援専門員の資格取得の助成を行っている。またグループで必要な資格研修にも多くの者が参加できるように職員の育成に取り組んでいる。	外部研修は職員に情報を伝え、希望や段階に応じて参加の機会を提供している。受講者はミーティング時に復命報告をし資料を閲覧できるようにして共有している。法人研修は年間計画があり、月2回同じ研修を実施して全職員が参加できるように支援している。内部研修は年間計画にそって年8回、テーマ別（急変時の対応など）に実施している他、日々の業務の中で働きながら技術や知識が身に付けられるように取り組んでいる。	
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修をはじめ、新任研修、月二回の法人内の勉強会や全体研修、グループホーム内での勉強会を実施している。また外部研修の機会もあり、研修後の報告書をスタッフ全員で回覧し、知識技術の向上に取り組んでいる。		
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域にグループホーム連絡会があり、勉強会、交流会に参加しサービスの質の向上に取り組んでいる。運営推進会議の際、近隣のグループホーム管理者をお招きして、情報交換を行っている。外部研修では他施設の管理者やリーダーと話す機会があり良い情報交換ができています		
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域に県宅老所、グループホーム協議会やグループホーム連絡会があり、サービスの質の向上に努めている。運営推進会議の際、近隣のグループホームの管理者をお招きして情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16	1階	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談や見学の機会を設けている。ユニットでお茶を飲みながらお話をする機会も設け雰囲気に慣れて頂けるように努めている。ご家族からも生活歴をお伺いし、入居後の日々のお話のきっかけ作りにも努めている。		
16	2階	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談や見学の機会を設けている。その際、お茶を飲んだり話をしたりして利用者様の思いを聴き、利用するに当たっての不安を解消するように努めている。		
17	1階	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設サービスの問い合わせには法人相談員が丁寧に対応している。見学もされており、管理者、リーダーは相談員と調整してご家族の想いを聴く機会を設け、その想いを受け止められるように連携している。また、担当スタッフをすぐに配置しお話等も聴けるようにしている。		
17	2階	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設サービスの問い合わせには法人相談員が丁寧に対応しており、管理者、リーダーは家族の想いを聞く機会を設け受け止められるよう連携している。担当職員もすぐに配置し、対応するようにしている。		
18	1階	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、法人相談員、ケアマネ、管理者が連携をとり生活の場としてグループホームの利用が良いのか老健や在宅での支援等、現在どういう状況でありどのような支援が必要なのか話し合っている。他のサービスの情報も提供している。		
18	2階	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族がまず何を必要とされているのか、ケアマネ、管理者、職員が連携を取り、生活の場としてグループホームがいいのか、現状どのような支援が必要か他のサービスの情報も提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	1階	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の得意とされる事やお好きだったことをご本人やご家族からお伺いし、畑の手入れの仕方や昔の習わし等、利用者様が主役となられ日々教えて頂くことがある。		
19	2階	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症になられても日々の関わりの中で「個性」「できること」「教わること」がたくさんあると知り、利用者様から昔の生活の様子をお聞きしたり、しそジュース作り等教わりながら共に支え支えられる関係づくりが築けている。		
20	1階	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	野の花メールや写真、記録物を見て頂き日々の様子を面会時にお話するようにしている。また電話等で報告しご家族の意見や気持ちを大切にしながら共に考えていくようにしている。認知症のお話をさせて頂きご家族の心の苦しみを少しでも緩和できるようにしている。定期的に外泊やご家族の付き添いで病院に通院もされたり、点滴時の付き添いもして頂いている。家族会ではご家族が催しをされたりして楽しませて下さっている		
20	2階	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いを知り、利用者様の日々の暮らしの出来事や気付いたことを密に報告し、ご家族と共に利用者様を支えていけるよう信頼関係を築いている。家族会ではご家族が水戸黄門に扮し歌を唄って会を盛り上げてくださる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方在住のご家族から定期的に写真入りの絵はがきが届いたり、暑中見舞いや年賀状をスタッフと一緒に書いて出される方もいる。時には電話でお話されたりもしている。また、遠方から兄弟が面会に来られ久々の再会を感激されることもあった	知人や身内の人の来訪がある他、馴染みの店へ買い物に行ったり、自宅周辺のドライブに出かけている。年賀状、暑中見舞状、絵葉書、手紙などの支援や家族の協力を得て結婚式や葬式への参加、墓参り、行きつけの美容院の利用、外泊、外食など関係が途切れないように支援に努めている。	
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの商店に買い物に行かれたり、近所の一緒にカラオケを楽しまれた友人達が面会に来られたりもしている。知人の方との年賀状もやりとりされ職員が代筆をしている。外出・外泊・面会はいつでもよいこととお伝えしており、月に一度定期的に外泊もされご家族とゆっくり過ごされる方もおられる。		
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングのテーブルの席の配置は利用者様同士の相性を考慮し随時席替えを検討している。仲の良い方同士で外食に出かけたりトラブルになる前にスタッフが間に入り嫌な想いをされないように支援している。また、介助のいる方や体調不良の方に対して優しい気遣いをされる利用者様もいっしょり利用者様同士で支え合う関係もできている。		
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者様同士でお話をされていたりお部屋を行き来しお互いを心配しあう場面も見られる。時には職員が間に入り関わりがとれる環境をさりげなく支援している。食事の席も相性を考え配置を考えている。2ユニット合同の行事もあり普段関わりが少ない利用者様同士がお話できる場面を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23	1階	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人施設に移られた方へのもとへ面会に行ったり入院された方には寄せ書きを持ってお見舞いに行ったりしている。退去された方には思い出のアルバムを作成してお渡ししている。		
23	2階	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方にはお見舞いに行き、退去された方には思い出のアルバムを作り、お渡ししている。亡くなられた方には、担当職員とお線香をあげに伺い、思い出話をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11) 1階	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の表情や発言はケース記録に細かく残すようにしており、またその人の発した言葉にはマーカーを引き希望や意向の把握に努めている。また日々の行動や会話からサインの見逃さないようにしている。意思の伝達が困難な利用者様には担当職員が中心となり、昔お好きだったことや気付きなどを他の職員に情報を伝え支援している。	寄り添い表や入居時のアセスメント表、3ヶ月ごとに見直されたアセスメント表などを活用する他、日常の関わりの中での利用者の言葉や行動などをケース記録に記録して、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族から情報を得たり、職員間で話しあって本人本位に検討している。	
24	(11) 2階	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限りご本人に話を聞き、ご家族には面会時やケアカンファレンス時に生活歴を詳しくお聞きしている。意思の伝達が困難な方には担当職員が中心となり小さなサインを見逃さないように情報の共有に努めている。		
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時や家族会等の機会を利用して今までの生活環境や生活歴をご家族から聞ける範囲でお伺いしている。聞きづらい事は十分配慮してお聞きしている。本人やご家族との何気ないお話の中から新たな発見があれば他のスタッフにも伝え共有している。今までの暮らし方や環境をお聞きして寄り添い表を作成している。		
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	法人相談員からの情報とご本人、ご家族の面会時、家族会等で出来る限りたくさん話し、把握するように努めている。聞きづらい事は十分配慮してお聞きしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	1階	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録や連絡帳、生活の記録を活用し利用者様の生活ペースや心身の細かい変化をスタッフ全員が共有できるようにしている。随時ミーティング等で気付きを話し合い、今必要な事が何なのかを話し合っている。		
26	2階	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録、アセスメント表、連絡帳を活用しちょっとした変化も見逃さないように状態を把握し、担当の職員を中心に全職員で情報を共有している。		
27	(12) 1階	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当スタッフが中心となり利用者様やご家族に要望をお聞きしている。また事前にアセスメントを行い課題を見出しカンファレンスで意見を出してより良い介護計画を作成できるようにしている。ご家族の意見も介護計画に反映させている。モニタリングもしっかり行い介護計画が思いに沿ったものであったかどうかを評価し次の計画に反映させている。状態に変化があった時はその都度見直しを行い現状に合ったプランを作成している	月1回カンファレンスを行い、本人の思いや家族の意向、医師の意見やアセスメント表を参考にして、利用者を担当する職員、計画作成担当者を中心に看護師や関係者として話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、見直しをしている。利用者の状態の変化や意向が変わった場合は、モニタリングに基づいてその都度、計画の見直しをしている。	
27	(12) 2階	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	三か月に一回モニタリングを行っており、ケアカンファレンスの際にはご本人、ご家族の参加を呼びかけ、要望を伺い、職員間でも意見交換を行い介護計画を立てて実行している。また状態の変化に応じてモニタリングをし、変更している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	1階	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に介護記録、看護記録、ご家族欄と別れて記入できるようになっており日々の様子を細かく記入し、気づき等があれば連絡帳を活用し情報の共有に努めている。カンファレンス時にはもう一度記録を見直し統一したケアや想いに沿った介護計画を作成するよう努めている。		
28	2階	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録には発言や行動を詳しく記入しご本人とご家族の要望を色分けし一目で分かるようにしている。気づきや、より良いケアの工夫は連絡ノートに記入し、皆で情報を共有している。		
29	1階	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方在住のご家族の要望で、かかりつけの眼科への受診付き添いや手紙のやり取りの支援、敬老会への付き添い、買い物や外食と個別の要望にも対応している。学習療法も取り入れ、認知症の進行予防にもなっている。		
29	2階	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	空き部屋を利用してショートステイサービスを行っている。24時間医療連携もしている。思い出の場所へドライブしたり、釣り好きの方とヤマメ釣りに出かけるなど個別の対応を行っている。		
30	1階	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公民館での催しに参加させて頂いている。運営推進会議には地元消防団、自治会からの参加があり災害時の協力要請をしている。地元ならではの災害時の避難方法や避難場所の意見交換も行っている。また、地域の休耕作地を借りて小学生と一緒に野菜を作ったり収穫を行い小学生との交流も図っている		
30	2階	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で災害時の地元消防団、消防署、自治会長等への協力の要請をしている。地元ならではの災害時の避難方法や場所の意見交換も行っている。また、地域の休耕作地を借りて利用者様と一緒に野菜を作ったり収穫を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に法人のクリニックで定期健診を受けている。入居前からのかかりつけ医(眼科)に付き添いもしている。定期健診に行くことが困難な利用者様には在宅総合診療を行っており月二回、医師の往診がある	協力医療機関をかかりつけ医とし、月1回の通院や往診の支援をしている。歯科医(協力医療機関)の週1回の口腔ケア、義歯の調整等を受けている他、他科受診の支援をし、受診家結果などの情報を家族に伝えている。事業所に看護職を確保している他、週1回の訪問看護があり、協力医療機関と連携して緊急時の対応をしているなど、適切な医療を受けられるように支援している。	
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の法人の定期健診を受け、結果については利用請求と一緒にお知らせしている。定期健診が困難な利用者様には在宅総合診療を行っている。他科受診ではご家族の協力もある。		
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者は准看護師の資格を持っており看護の目線でも利用者様の状態を把握している。グループホーム職員に看護師がおり、介護士と連携して情報を共有し常に健康管理や状態変化に対応している。また、クリニックからの週1回の訪問看護の際にも情報を伝え医師への報告もしてもらっている。		
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム職員に看護師がおり、利用者様の現状を細かく情報共有している。法人内の訪問看護も週に一度あり、利用者様の様子や健康状態を把握し医師との連携をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	1階	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者様のサマリーを作成しスタッフからも病院等に様子を伝えている。相談員を通して主治医やご家族と相談して認知症が進行しないように早期退院に心がけている。場合によっては、法人の老健施設でリハビリを受けグループホームへ復帰することもできる。入院中はお見舞いに行っている。		
33	2階	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者様のサマリーを作成し職員も病院等に様子を伝えている。相談員を通して主治医やご家族と相談し、認知症が進行しないように早期退院に心掛けている。その間、希望があればお部屋をキープすることも出来る。		
34	(14) 1階	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の指針・対応マニュアルがある。契約の際、指針を交付し説明も行っている。状態の変化がある度に随時ご家族に意思の確認をして、ご家族、医師、看護師等を含めた話し合いの場を設け何度も意向の確認を行うようにしている。居室は常に整理整頓に努め、お好きな音楽を流したり手を握って差し上げたりし不安の軽減に努めている。	契約時に事業所の方針を家族に説明し、同意を得ている。実際に重度化した場合は、主治医の意見を参考にして家族や看護師、関係者等で話し合い、移設も含めて方針を共有し、チームで支援に取り組んでいる。	
34	(14) 2階	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化及び看取りに関する指針・対応マニュアルがあり、契約の際、説明も行っている。状態変化があった時はその都度ご家族、医師と連絡をとり、今後の方針について話し合っている。看取りの際は、職員全員で出来る限り、その方の不安を軽減できるよう話し合い、お好きな音楽をおかけしたり、こまめにスタッフが代わる代わる訪室し声かけをし支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	1階	(15) ○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	勉強会で事故防止と事故発生時の対応を学んでいる。職員は救命講習を受けており、AEDの設置ステーションにもなっている。法人で応急手当推進委員会を立ち上げ全職員が勉強会に参加し、緊急時に対応できる実践力を身につけるよう取り組んでいる。定期的に確認・訓練も行っている	インシデント、アクシデント報告書に記録し、その場にいた職員で対応策を話し合い、ミーティング時に検討して共有し、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。法人の普通救命講習や緊急時の対応、応急手当の研修で学んでいる他、内部研修で誤嚥、窒息、心肺蘇生などの対応について習得の取り組みをしているが、応急手当や初期対応について全職員が実践力を身に付けるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための定期的な訓練の実施
35	2階	(15) ○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	マニュアルがあり勉強会で事故防止と発生時の対処について勉強している。毎月他事業所での救命講習に職員が交代で参加し学んでいる。またAEDの設置ステーションでもあり、心肺蘇生の勉強会も定期的に行っている。		
36	1階	(16) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対策マニュアルがありグループホームの勉強会でも学んでいる。年2回火災・災害(地震)の避難訓練を行っている。避難訓練時には避難経路の確認や怪我等を想定した処置方法も指導を受けている。消火器は誰でも操作できるよう訓練している。地域への協力体制は運営推進会議のメンバーにも消防訓練に参加して頂き、具体的な話し合いをしている。また自治会長にも災害時には協力が得られるように声をかけている	年2回、火災時避難訓練(夜間想定)を地域に人や運営推進会議のメンバーが参加して実施している。地域の防災訓練への参加や、事業所の緊急連絡網への自治会長の加入を得ている他、自治会の自主防災組織に加入し、地域と一緒に災害対策に取り組むなど、地域との協力体制を築いている。	
36	2階	(16) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対策マニュアルがあり、勉強会で学んでいる。施設での消防避難訓練もあり利用者様と一緒に参加している。運営推進会議でも自治会、近隣施設、警察、消防の方々にも協力が得られるよう働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ全員が接遇研修にて言葉遣い等の指導を受けている。また、名札の裏には理念と共にプライバシーの保護についてを入れており常に意識ができるように努めている。不適切な対応はスタッフ同士でも注意し合える関係作りをしている。記録物は代理人の方のみ公表している。	法人研修やキャリアの研修でプライバシーの確保や接遇について学び、職員は利用者の誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないことを徹底している。気になる言葉かけや対応があれば、その場で職員同士で話し合い、ミーティング時にも検討している。	
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員、接遇研修にて言葉遣い等の指導を受けている。また名札の裏には理念とともにプライバシーの保護について記してある紙を入れ、常に意識ができるように努めている。お互い注意し合う環境を作っている。		
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物は数種類用意し、その中から選んで頂けるように工夫している。言葉の語尾は選択ができるような声かけを行って自己決定ができるようにしている。また、日頃のコミュニケーションの中から利用者様の希望や要望を引き出せるように具体的に分かりやすく声かけをするように努めている。		
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に選択できる声かけを行い自己決定ができる場面を作っている。おやつ飲み物でも、様々な種類を用意しお好みのものをお出ししている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39	1階	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や起床就寝の時間、レクリエーションへの参加、入浴希望などはその方の希望や生活習慣に合わせて支援している。また、外出行事等でも希望をお聴きしその方に合わせ柔軟に対応している。お好きな新聞等を読まれたり、煙草を吸えるように支援もしている		
39	2階	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	寄り添い会話する中で、ご本人の意思を尊重し食事、入浴などその方のペースに合わせてるようにしている。ちょっとした表情の変化も見逃さず声をおかけし、希望に沿えるように努めている。		
40	1階	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装に関しては介助が必要な方でも一緒に選びお好きな服を着て頂くようにしている。外出や行事の時は希望をお聞きしお化粧品したり浴衣を着られる方もいる。また、下着が裾から出ていたり重ね着をされる方にはさりげない声かけ、整容を行い、身だしなみの支援をしている。月1回移動美容室が来るのでご自分の好きな髪型にされたり毛染めやパーマをかけたりされている		
40	2階	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容には特に気を付けている。服も季節にあったものを、その方を選んで頂いている。毎月移動美容室が来られ、希望をお聞きし、カラーやパーマをして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳は利用者様と一緒にしている。下膳もできる方にはご自分でして頂いている。日々のお話の中で嗜好をお伺いし、好みのものをお出しできるようにしている。時には目の前で好み焼きを焼いたり刺身の皿をお出ししたり目でも楽しんで頂いている。ビールがお好きな方には行事の時は乾杯をして頂いている。暖かい時期にはウッドデッキでランチバイキングやソーメン流しをしたりして季節を感じながら楽しく食事ができるよう支援している。	三食とも法人の厨房からの配食で利用者の好みや食事の形態に配慮した管理栄養士の献立で、栄養バランスの取れた食事を提供している。利用者は台拭きや盛り付け、下膳、食器洗い、お盆拭きなど、できることを職員と一緒にしている。お好み焼き、ギョウザ、バーベキューなど利用者が調理できる機会をつくる他、おはぎ、桜餅、ホットケーキ、柏餅などのおやつづくり、しそジュースづくり、ソーメン流し、サンマ祭り、行事食、誕生日の個別外食、家族と一緒にの外食、ホテルでの外食など「食」を通じた様々な取り組みをして、利用者が食事を楽しむことができるように支援している。	
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	厨房からの食事を利用者様と一緒に盛り付けし、下膳、食器洗い、お盆拭き等その方に合った作業をして頂いている。おにぎりを好む方におにぎりをお出ししている。季節の行事や誕生日会には手作りのものをお出ししている。ミキサー食の方には食材毎にミキサーをかけ、色どりにも配慮する。		
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事量、水分量をチェックし生活の記録に記入している。嚥下状態の悪い方にはトロミを付けてお出ししている。水分量の少ない方にはゼリーやアイスをお出しするなどして工夫している。毎食、管理栄養士によるカロリー計算された食事が提供されており、また体重測定を毎月行い、体調変化の目安になっている。		
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量は毎日記録表で管理している。不足している方には好みのものをお出しして摂取量が減少しないように努めている。嚥下状態の悪い方にはトロミをつけたり、お粥やミキサー食をお出しするなどして必要な栄養が確保できるように工夫している。医師や管理栄養士にも指導・相談を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	1階	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	現在全員が協力歯科医療機関による口腔ケアを月1～4回受けておられ口腔内清潔の指導や治療を受けておられる。口臭や汚れに関しては会話の時などにさりげなくチェックしその方に応じた支援を行っている。日曜日は義歯を洗浄液に漬けている。また、口腔ケアの勉強会にも参加し誤嚥性肺炎等の予防にも繋がることをスタッフ全員が学習し清潔保持の支援を行っている。		
43	2階	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	特に就寝前には口腔ケアの声かけ見守り、介助を行い支援している。毎週日曜日はポリデントの日と決めており義歯洗浄に努めている。毎週木曜日に歯科医等による口腔ケア、義歯調整、指導、助言を頂きそれに基づいてケアを行っている。		
44	1階	(19) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	その方の排泄パターンを把握しその方にあった対応やパットを使用している。プライバシーに十分配慮しその方に合わせたトイレ誘導や声かけを行っている。また、ご自分でパットの片づけができるようにトイレにゴミ箱を置いたり入浴時さりげなく下着を交換したりしている。	排泄チェック表を活用して、排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせた声かけや誘導でトイレでの排泄ができるように支援している。	
44	2階	(19) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ミーティング等で話し合いその方に合わせたトイレ誘導や声かけを行っている。その際、プライバシーに十分配慮した声かけを行う。医師、薬剤師と相談しながら緩下剤の量等も調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	1階	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘をしやすい方にはなるべく乳製品またオリゴ糖等を摂って頂くようにしている。また、腹部マッサージや散歩やラジオ体操等の運動でも便秘予防に努めている。食量やお腹の張り等も便秘の疑いの目安にしている。便秘の予防に漢方のお茶もお出ししている		
45	2階	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品、オリゴ糖等を取り入れたり10時の体操や散歩、家事等で適度に体を動かすことで便秘解消に努めている。水分もお茶等お代わりをすすめるようにしている。		
46	(20) 1階	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日や時間は決めずに毎日希望をお聴きしながら入浴をして頂いている。入浴を嫌われる方には香りの良い入浴剤や柚子湯にしてみたり入浴したくなるような環境を作り無理のないようにお誘いしている。湯温や、シャワー浴、足浴等希望をお聴きしている。体調不良の方は清拭をして対応している。	入浴は毎日、14時から21時ころまで可能であり、利用者の体調や希望に合わせてゆっくり入浴できるように支援している。入浴中に職員と会話したり、歌を歌ったり、入浴剤の使用や菖蒲湯、ゆず湯など入浴が楽しめるように工夫している。入浴したくない人には、職員が交代したり、時間を変えたり、声かけに工夫して入浴できるように支援している。	
46	(20) 2階	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時間は14時～21時までとし、希望の時間に入れるようにしている。入浴中、好きな歌と一緒に唄ったり、話をし楽しい時間になるよう努めている。菖蒲湯、ゆず湯、入浴剤を使用し好みの温度に調整し気持ちよく入浴して頂けるように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	1階	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	使い慣れた寝具を持ちこまれたり空調管理や湿度調整を行い安心して快適に休まれるように支援している。遅くまでテレビを見られる方や朝はゆっくりと起きて頂けるように無理のない声かけを行っている。また、居室はプライベートな空間でありご本人が休みたい時に自由に過ごしていただけるような生活支援をしている。		
47	2階	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	使い慣れた寝具を使用して頂き、空調管理や湿度調整を行い安心して快適に休まれるように支援している。一人になりたい時は居室でゆっくり休んで頂けるよう支援し、言葉に出来ない方は選択できる声かけをし、意思を尊重し、居室でゆっくりお好きな音楽等を聴いて頂いたりと対応している。		
48	1階	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月に2回薬剤管理指導で薬剤師より薬の副作用や効能について指導を受けている。利用者様の体調の変化は薬剤師にも相談し医師への報告もしてもらっており医療職との連携も図れている。また、与薬マニュアルを作成しており手順に沿ってお一人ずつお渡しし、確実に飲まれたか最後まで確認して与薬を行っている。全員の飲まれている薬が一目でわかる薬の一覧表も作成しており、また薬に変更があった時は薬の内容についてその都度回覧し全スタッフが把握している		
48	2階	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月に2回薬剤管理指導で薬剤師より薬の副作用や効能について指導を受けている。利用者様の体調の変化は薬剤師にも相談し医師への報告もしてもらっており医療職との連携も図れている。また、与薬マニュアルを作成しており手順に沿って与薬を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の生活歴を把握した上で、要望に沿いながら得意の踊りや歌を皆さまの前で披露して頂いたり、掃除の仕事をされていた方はユニットの掃除を毎日の日課とされていたり、過去に教師の仕事をされていた方には「ことわざのクイズ」で知識を発揮して頂いたり、常にスタッフは利用者様に教わったり共に楽しむことを大切にしている。タバコが好きな方で、食後に一服されるのを楽しみにされている方もおられる	テレビ視聴（水戸黄門、歌番組、お笑い番組、野球など）、コンサートやコーラス、ブラスバンドの演奏を聴く、カルタ取り、漢字パズル、絵パズル、オセロ、ことわざ、クイズ、計算、ぬり絵、習字、カラオケ、風船バレー、ラジオ体操、手指体操、小学生との野菜の苗植えと収穫、買い物、外食、盆踊り、花火、季節行事への参加、おやつづくり、花の水やり、盛り付け、後片づけ、洗濯物たたみ、掃除などの楽しみごとや活躍できる場面をつくり、利用者が張り合いを持って暮らせるように支援している。	
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の生活歴を把握した上でその方の楽しみを支援する。詩吟が得意な方にはラジオ体操後のレクの時間に皆様の前で披露して頂き、就寝前に毎日赤ワインをグラスに1杯だけ飲まれる方や、日記を毎日書かれる方等お一人お一人の楽しみを支えている。		
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日はスタッフと一緒にゴミ出しに行ったりそのまま散歩をしたりしている。担当と1対1でデパートに買い物に行ったり、外食やドライブ、四季の花を見学に行くなど頻繁に外出の支援をしている。車いすの方もリフト車を使用し外出できている。家族会でご家族と日帰りバス旅行に行かれる方もいらっしゃる。	散歩や買い物、ゴミ出し、地域の行事、保育園の夕涼みの会や運動会、小学校の運動会や卒業式、御大師巡り、コンサート、花見（桜、菖蒲、つつじ、コスモス、紅葉など）、外食、日帰り旅行など、戸外に出かけられる機会を多く作り、利用者が外出を楽しめるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ゴミ出しをスタッフと一緒にしたり、天気の良い日はそのまま散歩をしたりしている。日々の会話の中から利用者様の行きたい場所等をお伺いして、誕生日会などの機会を利用し個別に外出している。ご本人の希望でご家族と連絡を取り、自宅にスタッフが付き添い帰られる方もいる。地域で開催される行事にも定期的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	1階	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる利用者様はご家族と相談し少額のお小遣いを持って頂いている。スタッフが管理している方でも買い物の際はお好きなものを選んで頂き、会計時はご本人に現金をお渡ししご自分で会計ができるような支援を行っている。		
51	2階	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手元に少額の現金を持たれている方もいらっしゃる買い物に行った際はご自分で支払いをして頂いている。スタッフが管理している方でも買い物の際はお好きなものを選んで頂き、会計時はご本人に現金をお渡しし、ご自分で会計ができるような支援を行っている。		
52	1階	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いはご自分で書かれる方にはお声かけをし希望があれば書いて頂いている。返事をとてもうれしそうに眺めておられる。自ら電話をされる方はいらっしゃるが正面玄関には公衆電話があり希望があれば使用できるようになっている。また、ご家族からの電話をご本人とかわり遠方のご家族との繋がりも絶えないようにしている。		
52	2階	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	玄関にいつでも使用できる公衆電話が設置してある。遠方のご家族やいこの方から手紙が届き担当スタッフと一緒に返信を書かれています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下にはソファが置いてあり仲の良い方と一緒にくつろがれている。共用空間には絵画をかける等してインテリアにも配慮し文化的な生活を送って頂けるようにしている。中庭にはデッキがあり他事業所の方との交流も図れるようになってきている。玄関は上がり框が設けてあり一般家庭に近い環境になっている。また、室温や反射する光、風の音、テレビの音量等にも常に気を配り季節の花や野菜などを飾るなどして季節を感じて頂きながら快適に過ごして頂けるように努めている。	玄関や廊下、リビングなどに季節の花が生けてあり、中庭の花や木々、プランターに植えてある花などからも季節を感じることができるよう配慮している。リビングには自然の光が差し込んで明るく、テレビ、テーブル、椅子、ソファなどを配置してある他、廊下の照明にも工夫し、廊下にもソファを置き、利用者一人ひとりの居場所づくりをしている。温度、湿度、換気、音などに配慮して利用者が居心地よく過ごせるように支援している。	
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下にはソファが置いてあり仲の良い方と一緒にくつろがれている。共用空間には絵画をかける等してインテリアにも配慮し文化的な生活を送って頂けるようにしている。ベランダからは中庭が見え四季が感じられるようになってきている。玄関は上がり框が設けてあり一般家庭に近い環境になっている。また、室温や反射する光、風の音、テレビの音量等にも常に気を配り、季節の花や野菜などを飾り四季を感じて頂きながら快適に過ごして頂けるように努めている。		
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のソファは一人で休んで頂いたり仲の良い利用者様との団らんの場となっている。リビングのテーブルも気の合う方が同じテーブルになるように席も考慮している。リビングのソファでゆっくりと新聞を読まれたり仲の良い利用者様同士でお話されたりして笑い声もよく聞かれる		
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のソファは一人で休んで頂いたり仲の良い利用者様との団らんの場となっている。リビングにもソファがありテレビを見ながらくつろがれたり、いつものテーブルで普段あまり話をされない方でも様子を見て間に入り、ゆっくりお話できる機会を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、ご家族にお願いしご自宅で使い慣れた馴染みの深いものを持ってきて頂いている。鏡台やご自分で作られたクッション、大好きなお花をたくさん置かれている方もいらっしゃる。またお若い頃の写真やご家族の写真を持ってこれ壁に貼られている方もいる。	ダンス、机、椅子、棚、衣装ケース、テレビ、鏡台、クッション、ぬいぐるみ、人形、鉢植の花、掃除道具など、使い慣れた物や好みの物、生活用品などを持ち込み、自分の作品や若いころの写真、家族の写真などを飾って、利用者が安心して過ごせるように工夫している。	
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までご本人が使われていた大切な道具や家具も持ち込まれ個性あるお部屋作りを行っている。またダンス、椅子、写真、花等馴染みの物を飾り、居心地よく過ごせるように工夫している。		
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関以外はバリアフリーとなっており廊下やトイレ浴室には握りやすい手すりがついている。居室は全室洗面台付きでご本人の能力に合わせてゆっくと整容や口腔ケアができるようになっている。		
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関以外はバリアフリーとなっており廊下やトイレ浴室には握りやすい手すりがついている。居室は全室洗面台付きでご本人の能力に合わせてゆっくと整容や口腔ケアができるようになっている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム野の花

作成日: 平成 25年 7月 4日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	誤嚥・窒息・心肺蘇生などの対応について習得の取り組みをしているが、応急手当や初期対応について全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	全職員が急変や事故発生時に備えて応急手当や初期対応について実践力を身につけることが出来る。	法人全体で取り組んでいる応急手当推進委員会で誤嚥・窒息・心肺蘇生法について全職員が講習に参加し手技を学び、また事業所でもリーダー、看護師が中心となり一人一人に訓練をし、どの講習をいつ受けたか受講もれのないように一覧表を作成している。グループホーム勉強会でも高齢者に起こりやすい転倒・骨折・熱中症・止血法等について知識・技術を学ぶ。月2回ある法人の勉強会でも緊急時の対応の講習、実技があるので、勤務を調整してすべての職員が参加できるように配慮する。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。